

令和4年度進行管理・評価シート
熊本市歴史的風致維持向上計画（令和2年6月24日認定）

口進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)		
1 熊本市歴史的風致維持向上計画の推進体制	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 熊本市景観条例・景観計画による誘導	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1-1 歴史的風致形成建造物助成事業	3
1-2 熊本城復旧事業	4
1-3 景観重要建造物・景観形成建造物助成事業	5
1-4 町並み復旧保存支援事業	6
1-5 町屋等活用促進事業	7
2-1 町並みづくり助成事業	8
2-2 道路空間整備事業	9
2-3 空地等活用事業	10
3-1 文化団体への助成事業	11
3-2 伝統技術普及継承事業	12
3-3 地域コミュニティづくり支援事業	13
3-4 くまもと工芸会館管理運営事業	14
4-1 坪井川舟運検討	15
4-2 歴史・文化を活かした観光体験事業	16
4-3 観光周遊促進事業	17
4-4 熊本城及びその周辺をつなぐ周遊バスの運行	18
4-5 川尻米蔵利活用事業	19
5-1 「復興城主」募集事業	20
5-2 歴史文化体験学習事業	21
5-3 歴史まちづくり教育事業	22
5-4 情報発信推進事業	23
5-5 歴史まちづくり調査研究事業	24
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の保存・活用の推進	25
2 文化財の防災	26
3 文化財の保存・活用の普及・啓発	27
4 埋蔵文化財の取り扱い	28
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	29
口法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	30

評価軸①-1
組織体制

項目	評価対象年度	令和4年度 現在の状況
熊本市歴史的風致維持向上計画の推進体制		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容

- ・景観担当部局と文化財担当部局を事務局とした庁内推進体制を設置するとともに、歴史まちづくり法第11条の規定に基づく「熊本市歴史まちづくり協議会」において、計画の推進や変更等の連絡・調整・協議等を行い、事業の推進を図る。
- ・必要に応じて、本市の都市計画や景観、文化財保護等に関する審議会、並びに文化財や歴史的建造物の所有者等と連絡調整を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

＜①法定協議会等の開催状況＞

事業進捗や今後の取組み等について、以下のとおり、法定協議会等に報告・協議を行った。

- ・熊本市歴史まちづくり協議会(第8回:R5年3月20日)
- ・法定協議会開催に伴い、事前に庁内調整会議を開催(R5年3月3日)

＜②建造物所有者、地域住民、関係団体等との連携状況＞

・計画認定後、建造物所有者や地域住民との対話の機会の創出に努めており、自治協議会等の場を活用し、各事業の取組方針等について、適宜、意見交換を行っている。なお、R4年度は、各重点区域において、地域住民と市長を交えた直接対話事業「市長とドンドン語ろう! 歴まち版」を開催し、今後の持続可能な歴史まちづくり等に関する意見交換を行った。

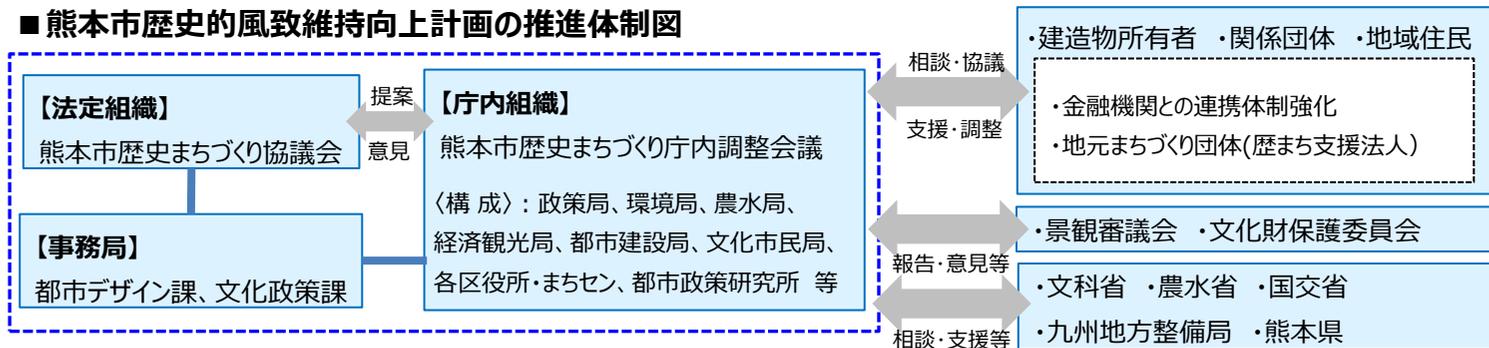
・重点区域等における各地元まちづくり団体を歴史的風致維持向上支援法人(歴まち支援法人)への指定を行い(R4年5月27日)、各種事業の推進において、当該法人とも連携した取組みを進めている。

・金融機関との連携としては、R4年2月に締結した、(株)熊本銀行との歴史まちづくりに関する連携協定に基づき、R4年4月から人材交流も開始するなど、市と金融機関が連携し、所有者や事業者等に対する様々な支援を行っている。

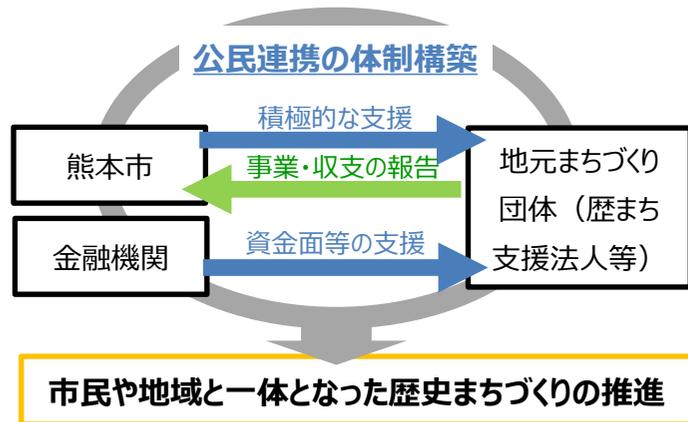
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後も、歴まち支援法人や金融機関等との更なる連携体制の強化を図るとともに、地域との協働による計画の推進を図っていくこととする。

状況を示す写真や資料等

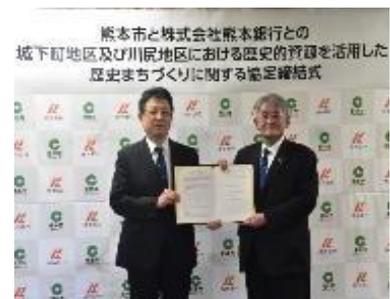
■熊本市歴史的風致維持向上計画の推進体制図



熊本市歴史まちづくり協議会開催の様子



歴史的風致維持向上支援法人(歴まち支援法人)の指定 (R4年5月)



熊本銀行との連携協定 (R4年2月)

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
熊本市景観条例・景観計画による誘導	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 平成21年(2009)10月に熊本市景観計画を策定、あわせて熊本市景観条例を制定し、総合的な景観形成を進めている。本市の歴史的風致は市内各所に広がっていることから、事業展開に合わせて景観行政と連携し、歴史的風致の維持向上に努める。
 ・城下町地区は、重点地域「熊本城周辺地域」等に含まれ、市街地と熊本城とのあいだのゆとりある眺望等を保全するため、熊本城を望む視点場及び天守閣からの眺望に配慮した景観形成基準等を定めている。
 ・川尻地区は、「歴史的な街並み地区」として、建造物等の色彩に関し、本地域で推奨する色彩や避けてほしい色彩等を定めている。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・景観条例・景観計画に基づく届出において、景観形成重点地区内の建築物等について、周辺と調和する色彩や意匠とするよう理解を求めている。R4年10月には、景観法に基づく届出対象を拡充し(太陽光発電設備の追加)、より一層、良好な景観形成や周辺景観への配慮を促している。
 ・R4年度は、197件の届出等(R5.1.31時点)に対し、景観形成基準に沿った協議を行い、良好な景観形成に努めた。

進捗状況 ※計画年次との対応

	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	R5年度は、熊本城の眺望など、これまで先人が守り育ててきた景観を未来に引き継ぎながら、良好な都市景観を創り育むために、景観計画の改定を行う予定。

状況を示す写真や資料等

■熊本城周辺地域における景観形成基準の概要及び色彩基準

■景観形成基準の概要(熊本城周辺地域)

対象	景観形成基準の概要
建築物、工作物	<熊本城特別地区> ・海拔50m(熊本城本丸の石垣の高さ)を超えないこと <一般地区> ・海拔55mを超えないこと 等
形態	・建築物等は、地域の雰囲気と調和するよう、全体を統一感のある形態・意匠となるように配慮すること 等
色彩	・樹木との関係に配慮し、地域の雰囲気を損なわない「地域で推奨する色彩」を使用するように努めること 等

■熊本城周辺地域で推奨する色彩

	色相	明度	彩度
明灰色	N	8 以上 9 以下	—
中灰色	N	6 以上 8 以下	—
暗灰色	N	3 以上 6 以下	—
明緑色	R・YR・Y系	8 以上 10 以下	3 以下
	GY・G・BG・B・PB・P・RP系		1 以下
中緑色	R・YR・Y系	5 以上 8 以下	3 以下
	GY・G・BG・B・PB・P・RP系		1 以下

■歴史的な街並み地区で推奨する色彩等

■歴史的な街並み地区の地域で推奨する色彩(川尻地区)

	色相	明度	彩度
白	N	9 以上 10 以下	—
明灰色	N	8 以上 9 以下	—
中灰色	N	6 以上 8 以下	—
暗灰色	N	3 以上 6 以下	—
黒	N	3 以下	—

■歴史的な街並み地区の避けてほしい色彩(川尻地区)

	色相	明度	彩度
明清色	R・YR系	6 以上 10 以下	3 以上 6 以下
	Y系		3 以上 4 以下
	GY・G・BG・B・PB・P・RP系		2 以下
暗清色	R・YR系	6 以下	3 以上 6 以下
	Y系		3 以上 4 以下
	GY・G・BG・B・PB・P・RP系		2 以下

評価軸③-1-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
歴史的風致形成建造物助成事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和2年度～令和11年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容 歴史的風致形成建造物の指定制度を活用するとともに、指定建造物の保存、修景等に係る経費の一部を助成する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・R2年10月に歴史的風致形成建造物の指定(30棟)とともに、指定建造物の保存・活用に対する助成制度を開始し、R3年度までに4件の改修工事が完了したところであり、現在も、改修に向けた相談を数件受けているところ。
 ・引き続き、歴史的風致形成建造物の指定制度や助成制度を通じて、歴史的建造物の保存・活用に対する市民や所有者の意識醸成を図っている。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

重点区域では、当該指定建造物30棟以外にも、歴史的価値を有する建造物が点在していることから、これらの建造物の追加指定に向けて検討を進める。

状況を示す写真や資料等

●歴史的風致形成建造物の指定



熊本市歴史的風致形成建造物指定証交付式(R2年10月)

●歴史的風致形成建造物の保存・活用に対する支援

改修前



改修後



椎葉邸(店舗部分の改修)
R4年2月工事完了

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
熊本城復旧事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成28年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業／都市災害復旧事業(公共土木施設災害復旧事業)／防災・安全交付金(都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業)／重要文化財(建造物・美術工芸品)修理、防災、公開活用事業／歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業／重要文化財等防災施設整備事業

計画に記載している内容 熊本城の石垣、重要文化財建造物及び再建・復元建造物の崩落・倒壊防止対策を講じつつ、本格復旧に向けた調査・設計・復旧工事を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・長塀のライトアップ設備の改修工事(R4年5月工事完了)により、多彩な表現のライトアップが可能となった。
 ・令和5年度に完了予定の監物櫓復旧工事を施工中。また、宇土櫓、戌亥櫓の解体保存工事、飯田丸五階櫓台石垣の復旧工事を実施している。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	復旧が未完了の建造物や石垣を「熊本城復旧基本計画」に基づき計画的復旧を進めていくうえで、今後も国・県との連携を継続していくとともに、文化財保全のための専門委員会との議論を重ね、復旧工事及び調査研究に取り組んでいく。

状況を示す写真や資料等



改修した照明設備による長塀のライトアップ



飯田丸五階櫓台石垣の復旧工事



監物櫓の復旧工事

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	

景観重要建造物・景観形成建造物助成事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
---------------------	---	--

事業期間	平成11年度～令和11年度
------	---------------

支援事業名	市単独事業/社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)
-------	------------------------------

計画に記載している内容	景観法及び熊本市景観条例に基づき指定した景観重要建造物や景観形成建造物の保存、修景等に係る経費の一部を助成する。
-------------	--

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和4年度に助成対象となる事業はなかったが、引き続き、所有者等からの助成金に対する相談対応を行っている。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後も所有者等からの助成金に対する相談対応を継続し、保存修景に向けた助成を継続していく。
--	--

状況を示す写真や資料等

■本市における対象建造物の数

景観重要建造物	景観形成建造物
5 件	1 4 件



景観重要建造物: 紫藤邸



景観形成建造物: 浜田醤油株式会社

評価軸③-1-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	

町並み復旧保存支援事業

R3年度事業終了

- 実施済
- 実施中
- 未着手

事業期間 平成29年度～令和2年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 新町・古町地区、川尻地区において、平成28年(2016)熊本地震により被災した町屋などの伝統的様式建造物(昭和25年(1950)以前に伝統工法で建てられた木造の建造物)の復旧に要する費用を補助し、伝統的様式建造物の保存を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

- ・令和3年度までの実績:33件(H29年度～R3年度)
- ・熊本地震により被災した町屋などの伝統的様式建造物に対し、復旧保存支援を行い、建造物の保存とともに良好な町並みの形成が図られた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	地震から一定の期間が経過したことに伴い、本事業については終了したが、町並みづくり助成事業をはじめとするその他事業により、今後も所有者等からの助成金に対する相談対応を継続していく。
--	---

状況を示す写真や資料等

復旧前

復旧後



町屋(万町2丁目) 復旧保存改修工事



町屋(細工町) 復旧保存改修工事

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
町屋等活用促進事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	令和2年度～令和11年度		
支援事業名	市単独事業/熊本県新型コロナウイルス感染症対応総合交付金/社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)		
計画に記載している内容	重点区域である城下町地区、川尻地区に残る町屋等を後世に引き継いでいくため、以下の取組み等を検討していく。 ・町屋等の歴史的建築物を保存・活用していくために、建築基準法の適用を除外する条例を制定するとともに、所有者等に対し、当該条例を活用するための計画書策定に係る費用の一部を助成する。 ・町屋の利活用のために、地区の不動産業者等と連携し、町屋の貸し手と借り手のマッチングを図る。その際、町屋への居住希望者を対象とした、町屋の見学ツアーや地域住民との交流の場を設けるなど、必要に応じた支援を検討する。 ・町並みづくりガイドラインの普及啓発等を行い、町屋等の修景促進を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・R2年度に、「熊本市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例(建築基準法の適用除外条例)」及び条例活用の際に必要な「保存活用計画」の策定に係る助成制度を創設し、町屋所有者等に対して、建造物の保存だけでなく活用に対しての意識の醸成を図っている。 ・町屋等への利活用促進を図るため、R3年度から、 <u>町屋等を新たに活用しようとする事業者に対する支援制度「町屋利活用モデル事業」</u> を立上げ、R4年度に、城下町地区1件、川尻地区1件、計2件の事業に対し交付決定を行った。 ・R3年度に実施した、利活用可能な町屋等調査事業(DB化事業)に基づく、地域資源のストックを活用し、R4年度からは、歴まち支援法人等と行政が連携した「町屋等利活用マッチング支援事業」を行っている。特に、川尻地区では多くの町屋等歴史的建造物が集積する、「川尻御蔵前の通り」と「旧三号線」沿いを中心とし、町屋等の所有者と利活用を希望する事業者とのマッチングや利活用に向けた動機付けに取り組んでいるところ。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	引き続き、地元まちづくり団体(歴まち支援法人)、金融機関、行政等が連携し、所有者等との信頼関係を構築するとともに、「町屋等利活用マッチング支援事業」や「町屋利活用モデル事業」等を協働で推進し、連鎖的な町屋等の保存・活用を促すための取組みを進めていく。		
状況を示す写真や資料等			
<p>●町屋利活用モデル事業</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>【城下町地区モデル町屋第1号:「早川倉庫」】</p> <p>→母屋2階の一部(約80㎡)を用途変更し、人が集い、発想し、実践するコミュニティの場(ワーキングスペース)として利活用</p>   </div> <div style="width: 45%;"> <p>【川尻地区モデル町屋第1号:「川ぐら」】</p> <p>→1階を交流の場や新規出店者等のチャレンジショップ(約71㎡)・2階を多目的用途のレンタルスペース(約70㎡)として利活用</p>   </div> </div>			

評価軸③-2-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
町並みづくり助成事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成24年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業/社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容 重点区域である城下町地区(新町・古町)、川尻地区において、町屋などの伝統的様式建造物や、一般建造物の保存・修景等に係る経費の一部を助成する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

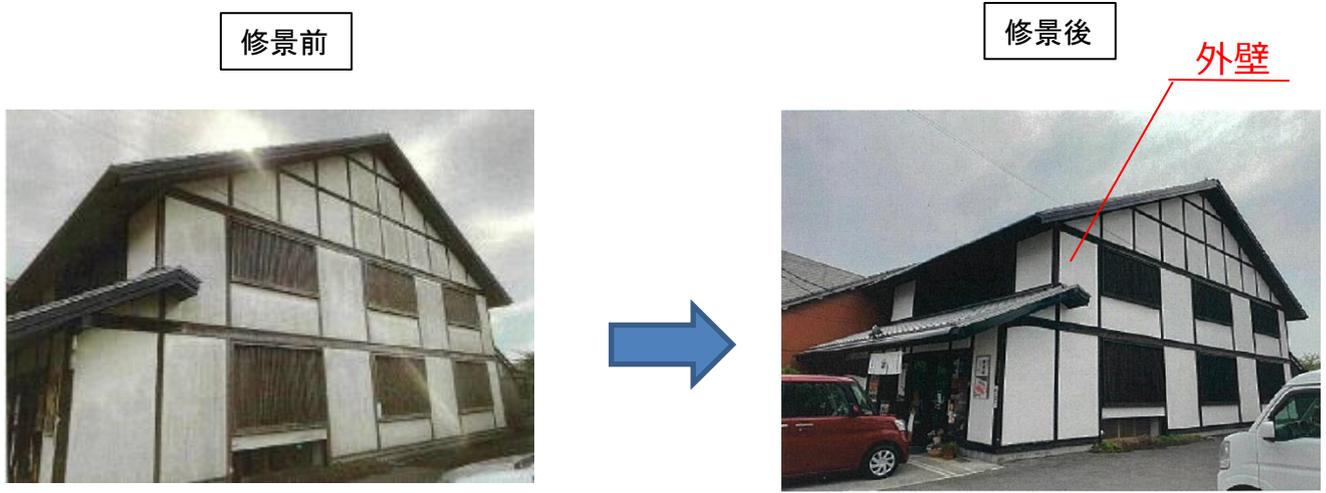
- ・令和4年度に3件の建造物に対し修景助成を行い、良好な町並みの景観形成を推進するとともに地域の住環境の向上が図られた。
- ・これまでの実績は、城下町地区(H24年度～R4年度)が計35件、川尻地区(H24年度～R4年度)が計12件。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

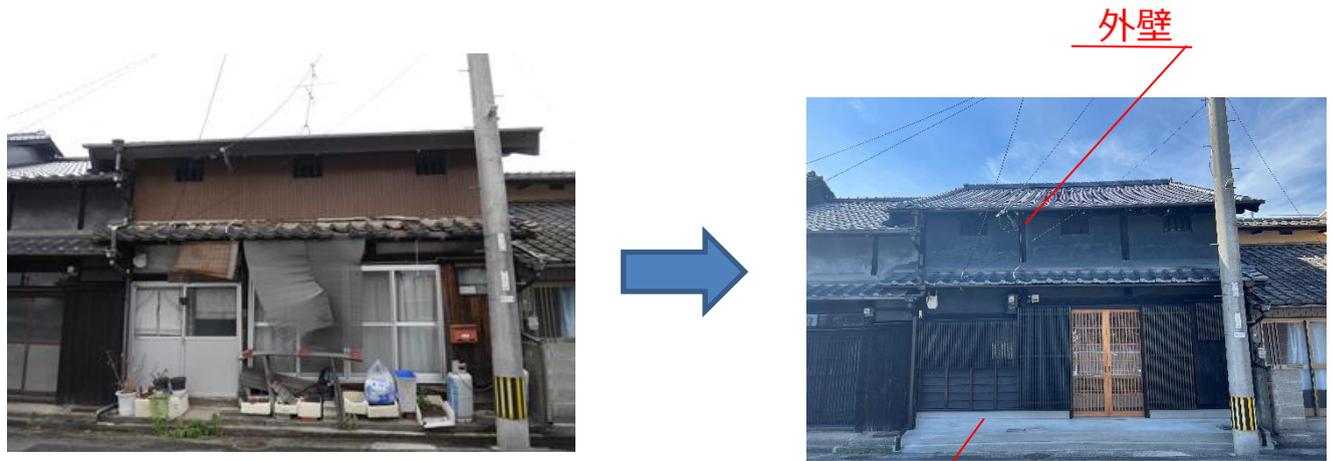
計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

保存・修景を行う建造物の歴史的価値を残していくために、適宜専門家と所有者・事業者を交えた協議の場を設けていく。

状況を示す写真や資料等



一般建造物(川尻1丁目)外観改修工事



町屋(小沢町)外観改修工事

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
道路空間整備事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	平成27年度～令和11年度
支援事業名	市単独事業/社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)/熊本県新型コロナウイルス感染症対応総合交付金/社会資本整備総合交付金(まちなかウォークアブル推進事業)
計画に記載している内容	地域住民との協議や現地調査等を実施し、歴史的な建造物が建ち並ぶ通りや祭礼等のルートなどのうち、特に歴史的な町並み景観の向上が必要となる通りを選定し、その町並み景観の向上を図るための道路美装化等の整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

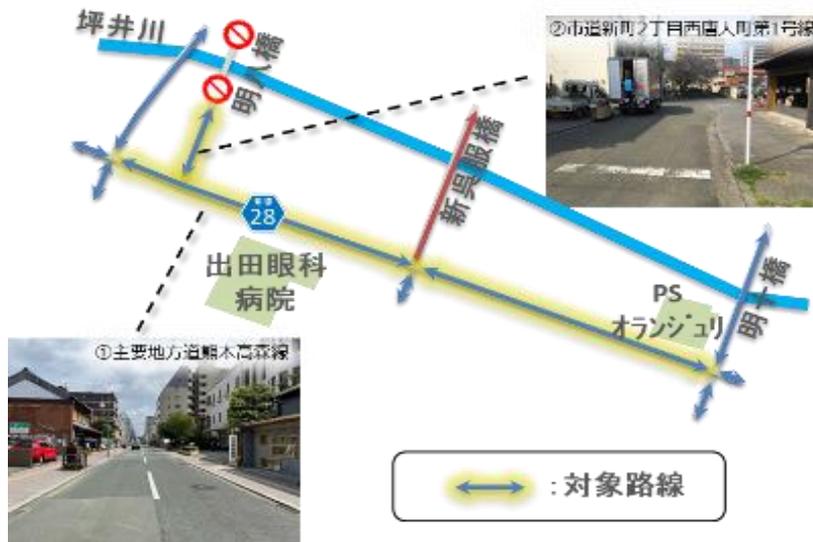
・「明八橋～唐人町通り」を対象に、賑わいや回遊・滞留につなげる道路デザインに見直すための整備検討を行っており、R3年度より引き続き、ワークショップ等を踏まえながら地域等との調整を進めている。

・「全国都市緑化くまもとフェア」で活用した植栽等を、試験的に、唐人町通りの沿線の民有地に設置するとともに、公民連携して植栽を設置管理できる持続的な仕組みの構築に向け、所有者や地域との役割分担のもと、社会実験を実施した(R4年7月～R5年3月)。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	唐人町通りの再整備の検討にあたっては、多くの人からの意見聴取が必要不可欠であるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等の影響があることから、ワークショップの開催時期等を調整しながら検討を進めている。 引き続き、道路空間だけでなく、沿道空間や周辺地域等も含めて、継続的な取り組みや実践による検証の繰返しを行い、機運醸成を図っていく。

状況を示す写真や資料等

●唐人町通りの再整備



唐人町通りみちづくりワークショップ



唐人町通り沿道緑化実験



唐人町通りみちづくりワークショップ

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
空地等活用事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	令和2年度～令和11年度
支援事業名	市単独事業/熊本県新型コロナウイルス感染症対応総合交付金
計画に記載している内容	城下町地区や川尻地区の重点区域内に発生した空地について、良好な町並みの創出や、地域の歴史まちづくり活動の活性化に寄与するための利活用方法を地域住民等と協同で検討し、利活用を図る
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	

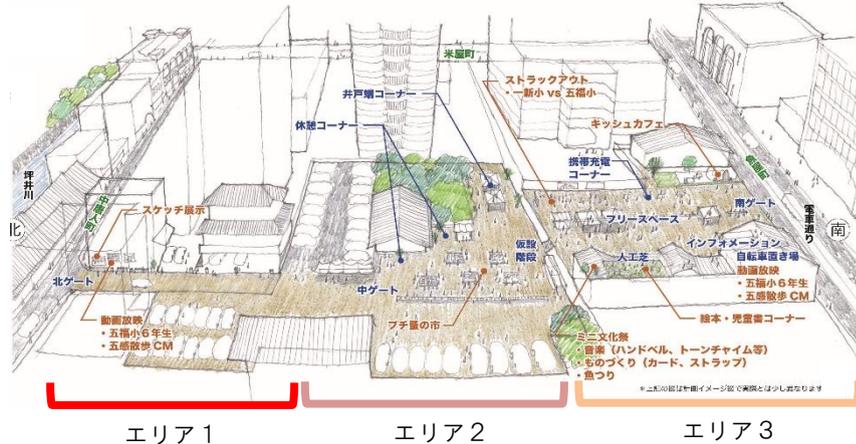
【城下町地区】
 ・一町一寺が残る城下町地区(古町地区)において、当地の路地や寺社・町屋跡にある駐車場等を活用する実証実験を、熊本市、一般社団法人KIMOIRIDON、熊本大学田中智之研究室、独立行政法人都市再生機構九州支社の4社共同で実施している。
 ・令和4年5月に実施した、通り抜け可能な新たな歩行者動線の確保の検証(プレ実験)を経て、令和4年11月の実証実験では、当該空間に空間演出用のテーブルやイスの配置、活動や滞在を促すこどもの遊び場やカフェスペースの設置、プチ蚤の市などを試行し、約300人の方にご来場いただいた。引き続き実施しながら、地域住民をはじめ、多くの方に受け入れられ支持していただける取組を目指す。

【川尻地区】
 ・令和4年10月、昨年度に続き、川尻の地域イベント「川尻お寺deフェスタ」のスピノフ企画の位置づけで、本立寺(南区川尻4丁目)の駐車場等を活用して開催された飲食イベントに合わせて、史跡「船着場跡」、これらを結ぶ「加勢川の遊歩道」のライトアップを行った。(ライトスケープキャラバン第10弾)

あ	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	実証実験では、地区内外からの来訪者があり、アンケートの結果、事業についての継続希望が多数であった。日常的な運営方法等を追求するため、今後も実証実験を繰り返していく。

状況を示す写真や資料等

●城下町地区の取組(くまもと古町実証実験<五感散歩>150mのロジづかい R4.11.12)



アンケート調査結果

・約300人の方にご来場いただきました。約6割が魚屋町側から、約4割が中唐人町側からのご来場でした。
 ・そのうち、100人余りの方からアンケートのご回答をいただきました。

- 男女比：女性65%、男性35%
- 年代：小学生13%、大学生8%、
 学生以外の20代6%、30代15%、40代14%、
 50代17%、60代15%、70代以上12%
- 居住地：五福校区32%、一新校区7%、その他市内45%
 その他県内14%、県外2%
- 来街手段：徒歩41%、車38%、自転車12%、
 市電4%、JR4%、バス1%
- 来街目的：ロジイベント56%、その他23%、
 近くの店19%(ピュアリー8%含む)、通勤2%
- 情報手段：通りがかり34%、SNS・HP20%、その他17%、
 小学校15%、口コミ11%、チラシ2%、回覧板1%
- 入りやすかったか? : はい 91% - いいえ 9%
- 続けてほしいか? : はい 92% - どちらでも 8% - いいえ 0%

調査方法

- ・アンケート調査員3人が来場者にアンケート票を配布
- ・来場者に会場内で記入いただき、その場で回収箱にて回収

●川尻地区の取組(ライトスケープキャラバン第10弾@本立寺&船着場跡)



(左)本立寺/(中)史跡「船着場跡」/(右)加勢川の遊歩道

評価軸③-3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
文化団体への助成事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成18年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 本市に残る神楽・獅子舞など歴史ある貴重な伝統芸能等の保護育成に係る費用の助成を、必要に応じて有識者の指導・助言を得ながら実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

無形文化財や無形民俗文化財の担い手育成促進のため、令和4年度(2022年度)には神楽や獅子舞等の保存継承活動を行う10団体へ活動費助成を行った。(1団体50千円)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

貴重な伝統芸能等を後世に継承していくためには若い世代が触れる機会を創出することが重要であるため、SNSを活用して気軽に閲覧できるような環境整備の検討を行っていく。

状況を示す写真や資料等



伝統芸能等の保存継承団体へ活動費助成を行い、後継者育成を図った。
 (左)上南部肥後神楽保存会 (右)木原神楽保存会

		評価対象年度	令和4年度
項目		現在の状況	
伝統技術普及継承事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成25年度～令和11年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	祭礼用の獅子頭の制作等にも用いられる伝統技術の継承や伝統工芸品産業の振興のため、必要に応じて有識者の指導・助言を得ながら後継者育成やPR、伝統工芸出張講座をくまもと工芸会館と連携を図りながら実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・年間工芸教室による伝統工芸品の制作などを通して、後継者育成に取り組んだ。 令和4年度年間工芸教室受講者数 肥後象がん23名、陶芸2名、竹工芸10名、七宝3名 ・通常の年間工芸教室とは一線を画した、より高度な技術習得を目指す講座を後継者育成事業として行った。 令和4年度受講者数 熊本友禪3名、肥後こま4名、押絵2名 ・伝統工芸出張講座、ワークショップを開催し、工芸品作り体験を通して市民が工芸品に触れる機会を創出した。 令和4年度受講者数 肥後象嵌11名、肥後まり10名 ・毎年パリで開催される工芸展に「アーティストスポット熊本」登録作家の作品を出展・販売した。 出展数(工芸家3名) 42種類69個			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後も継続してSNS等での伝統工芸の効果的な魅力発信を行うとともに、工芸家が工芸品を展示・販売できる新たな場の提供や伝統工芸の継承につながる取り組みを検討していく。		

状況を示す写真や資料等



▲パリとモンペリエで開催された企画展 第10回『「伝統と先端と」～日本の地方の底力～』パンフレット※一部抜粋



▲会場の様子

評価軸③-3-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
地域コミュニティづくり支援事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和2年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 地区住民が主体的かつ継続的に行う歴史文化の保全継承や防災などに対する課題の解決のための活動等に支援を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

＜城下町地区＞
 一新校区において、地域公民館建設補助金を活用し、新たな歴史まちづくり活動等の場として、公民館建設が行われ、令和3年度末に完成。令和4年度より供用開始となり、地域コミュニティの新たな拠点として活用されている。
 ・一新公民館の新築事業<一新公民館:補助金額7,500千円>

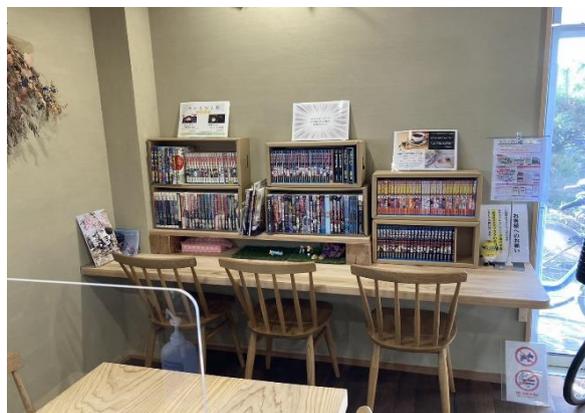
＜川尻地区＞
 ・川尻校区において、南区コミュニティづくり支援補助金を活用し、地域が主体となった活動が行われている。
 ・川尻まちおこし事業～漫画と写真でまちおこし～
 川尻地区において漫画を設置することで地域の活性化に繋げたり、過去の町並みがわかる写真を地域住民から集め、写真展を開催することで、歴史情報の発信と地域への愛着形成につなげる(R5年3月9日～)。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後も地域団体と連携し、地域課題解決に向けた新たなまちづくり事業への支援を継続していく。

状況を示す写真や資料等



【一新校区】:完成した一新公民館



漫画設置の様子

【川尻校区】川尻まちおこし事業～漫画と写真でまちおこし～

評価軸③-3-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
くまもと工芸会館管理運営事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	平成17年度～令和11年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	伝統工芸品づくりの実演や体験を通して、川尻地区および市内の伝統工芸品の振興を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・伝統工芸品の実演の見学や制作を体験できる教室などを日替わりで実施し、多くの方に伝統工芸品に触れることができる機会を提供した。
 ・県内外からの小中学校、高校の見学旅行や修学旅行等での体験学習として工芸体験を実施し、若者が工芸品に触れる機会の提供を行った。
 ・市民が伝統工芸品を身近に感じることができるよう、川尻地区や九州内の作品の常設展示や随時、企画展を行った。
 ・Youtubeチャンネルにて工芸実演・体験や企画展などくまもと工芸会館で行っている取り組みのPRを行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後も地域住民や団体と連携し、実演・体験や企画展、地域と連携して実施している「かわしり春ものがたり」やYouTubeチャンネルなどを通して、市内の伝統工芸品の振興、また川尻地区の地域振興に寄与することを目指す。

状況を示す写真や資料等



熊本市くまもと工芸会館Youtube公式チャンネル



かわしり春ものがたり チラシ

評価軸③-4-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
坪井川舟運検討	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和元年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 城下町地区を横断する坪井川について、外国人などの観光客に対しての体験型の観光ツールとして、舟運に向けた調査・検討を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和元年からR2年度にかけて通年に渡り坪井川の河川現況調査を実施した。現在、運行可能日数の算出、治水安全及び洪水発生時の安全確保、運営計画の精査などの課題整理を行っているところである。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後、河川管理者である熊本県及び関係者との協議を重ねながら、引き続き検討を進めていく。

状況を示す写真や資料等



歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
歴史・文化を活かした観光体験事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和2年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容
 地区住民が主体となって、来街者を対象とした地域の社寺等の観光資源を活用した観光ツアーを実施するなど、多様な体験型プログラムの作成・実施を行う。
 また、ボランティアガイドの育成や将来に渡って継続的な活動を行っていくためのスキームの検討等を行う。
 さらに、ARやVR等の最新技術を活かした新たなコンテンツの活用について検討する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

インバウンド需要の回復期を見据え、観光庁の「広域周遊観光促進のための観光地域支援事業」を活用し、滞在時の消費額を引き上げるために外国人観光客向けの滞在コンテンツ(ガイド付きの旅行商品)を2件作成した。

進捗状況 ※計画年次との対応 <input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述) 作成した滞在コンテンツ等を活用し、今後国内外の来街者が楽しめるプログラムの更なる充実を図っていく。
--	---

状況を示す写真や資料等



▲ 専門家を交えた検討会の開催



▲ ガイド育成研修



▲ 造成商品①
(江津湖サイクリングツアー)



▲ 造成商品②
(和装・文化体験ツアー)

項目		評価対象年度	令和4年度
		現在の状況	
観光周遊促進事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	令和2年度～令和11年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	来街者の回遊性を高めるため、地区内の周遊を促すルートの検討や、無料Wi-Fiの整備、老朽化した観光案内サイン等の多言語化を含めた更新等を行う。また、周遊ルートにおける自転車用サイン整備や観光レンタサイクルの導入等を検討する。 公共用地だけでなく、民有地も活用した周遊や観光案内の手法を検討し、観光周遊を促進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和2年度に整備した以下の事業について、モデルルートと共に整備内容を紹介するWEBページを観光WEBサイト内に制作した。 ・多言語観光案内サインの一体的整備(中心市街地、水前寺周辺、川尻周辺ほか) ・スマートフォン対応観光WEBサイトの言語・機能拡充、AIチャットボットの導入(日本語含み8言語対応) ・多言語エリアガイドの制作(日本語含み8言語対応) ・熊本駅白川口前広場の無料Wi-Fi設備導入 ・観光案内所(熊本駅、城彩苑)のデジタルサイネージ整備、非常用電源設備の設置 また、城下町散策町図(R3年度改訂)について、各観光案内所を始めホテル・熊本空港への設置をはじめ、令和4年度はマップの電子化を行い、「ambula map」サイトに掲載を行った。これにより、ブラウザやアプリでの閲覧が可能となっただけでなく、スポット毎に城下町PR動画のリンク掲載を行うことで相互効果を図っている。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後制作したWEBページ等の公開や新たなコンテンツの作成を通じて、更なる観光客の利便性・回遊性を向上させることとする。		

状況を示す写真や資料等

Recommended courses



Exploring Suizenji Jojuen Garden & Lake Ezu by Bike



Kumamoto Castle A One-Day Course to Visit Kumamoto Castle



Samurai Program

▲モデルコース

Travel Tips



















▲旅行のヒント









▲城下町散策町図電子化(ブラウザ・アプリで無料利用可能)

評価軸③-4-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度
熊本城及びその周辺をつなぐ周遊バスの運行		現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成18年度～令和11年度

支援事業名 熊本城周遊バス運行事業費補助金(公益社団法人 熊本県観光連盟)/中心市街地活性化ソフト事業(特別交付税)

計画に記載している内容 観光客がバスで気軽に中心市街地を回遊することを目的として、熊本駅を発着とした熊本城及びその周辺をつなぐ周遊バスの運行を実施し、観光客の交通上の利便性を高め、市内観光拠点への円滑な移動を促す。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・R2.11月以降EVバスを4便/日運行中。
 ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、R3.4.1から平日のみ減便して運行。
 (平日:22便→16便へ減便 土日祝:1日22便のまま)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

新型コロナウイルス感染症の影響により利用者減が長期化しており、昨年度から引き続き減便を実施している。今後はマスク着用の見直しや感染症法における感染症の分類見直しが予定されており、観光客等の来訪者も増加していくことが予想されることから、今後の利用状況等を踏まえ、ルートの見直しや利用促進に向けた取り組み検討を再開する。

状況を示す写真や資料等

事業概要	ルートマップ
<p>1.運行会社 熊本市バス株式会社(H28.4.1～)</p> <p>2.運行便数 平日:1日16便(概ね30分間隔 ※12時台は60分間隔) 土日祝:1日22便(概ね20分間隔 ※12時台から14時台までは30分間隔)</p> <p>3.所要時間 65分</p> <p>4.運賃 1回の利用 大人:160円 小児:80円 1日乗車券 大人:400円 小児:200円</p> <p>5.運行系統 熊本駅前⇒祇園橋⇒明八橋⇒新町⇒蔚山町⇒藤崎台下⇒桜町バスターミナル⇒桜の馬場城彩苑⇒熊本城・二の丸駐車場⇒子ども文化会館前⇒博物館・旧細川刑部邸前⇒KKRホテル熊本前⇒県立美術館分館横⇒熊本ホテルキャッスル前⇒市役所前⇒桜の馬場城彩苑⇒桜町バスターミナル⇒商工会議所前⇒ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ⇒熊本駅前</p>	<p>しるめぐりんバス停 しるめぐりんルート 立入り禁止エリア 周辺施設案内 市電ルート・電停 ホテル 観光案内所 御朱印スポット カフェ・昼飲みスポット</p> <p>1 熊本駅前1番のりば 2 祇園橋 3 明八橋 4 新町 5 蔚山町 6 藤崎台下 7 桜町バスターミナル 8 桜の馬場城彩苑 9 熊本城・二の丸駐車場 10 子ども文化会館前 11 博物館・旧細川刑部邸前 12 KKRホテル熊本前 13 県立美術館分館横 14 熊本ホテルキャッスル前 15 市役所前 16 桜の馬場城彩苑 17 桜町バスターミナル 18 ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ 19 熊本市役所前 20 熊本駅前</p>

評価軸③-5-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
「復興城主」募集事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成28年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 熊本城への復旧支援として1万円以上を寄付した方を「復興城主」として認定し、城主証や城主手形を交付する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

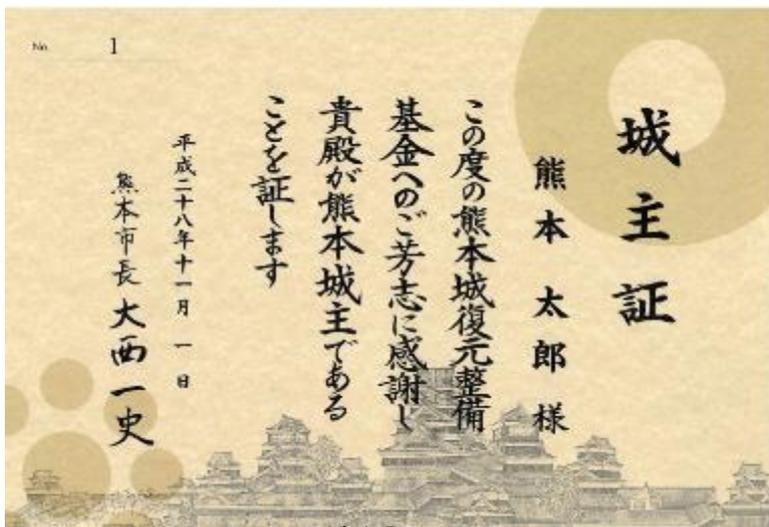
城主として熊本城の復興を応援したいという市民等からの声により、平成28年11月から開始した「復興城主」制度は、令和4年12月までに約29.4億円(約13万件)の寄附が寄せられ、復興に向けて創設した制度が定着してきている。また、特典のない熊本城災害復旧支援金も、平成28年4月からの制度開始から、令和4年12月までに約24.8億円(約2.4万件)の支援が寄せられており、寄附制度を通じて熊本城への愛着が高まってきている。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

制度は定着しているものの、寄附金額は年々減少傾向にあることから、さらなる広報活動に取り組む必要がある。令和5年度は、継続寄附者及び新規寄附者の増加につながるような制度の周知に引き続き取り組んでいきたい。

状況を示す写真や資料等



城主証



城主手形



デジタル芳名板

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
歴史文化体験学習事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	平成25年度～令和11年度
支援事業名	市単独事業

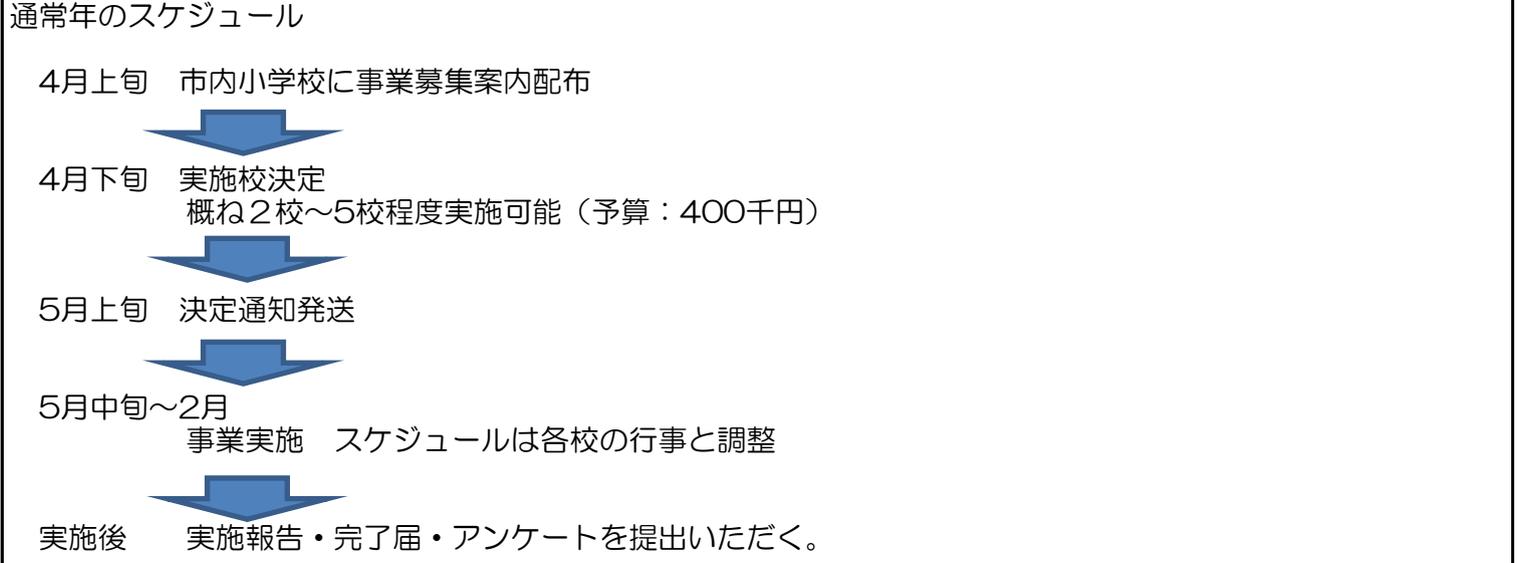
計画に記載している内容	市内の小学生を対象として、歴史的風致を含む歴史文化関連施設を巡るバスツアーなどを実施する。
-------------	---

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市内小学校を対象に事業実施希望校を募集し、歴史文化体験学習事業を1回実施した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	新型コロナウイルス感染症の感染対策を万全に期し、引き続き事業実施を継続する。

状況を示す写真や資料等



【実施の施設】



田原坂西南戦争資料館



学習の様子

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
歴史まちづくり教育事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和2年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 既存の歴史に関する教材等を活用するとともに、必要に応じて歴史的風致を伝える冊子やビデオ等を作成し、小中学校等の子供たちに向けた、歴史的風致に関する授業やワークショップなどの教育活動を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【景観教育(歴史まちづくり教育事業)】

・子どもの頃から身近なまちや良好な「景観」に対する関心を持ち、景観や歴史まちづくりに対する意識を高めることを目的に、市内の小中学生を対象に、R3年度から景観教育を行っている。
 ・R4年度は、制作した景観教育動画を活用し、職員による「景観」に関する授業を3つの小学校で実施した。授業で学んだ新たな視点を踏まえ、まちの課題解決に向けた活動の実践や情報発信等、総合学習等に取り組んでもらった。

【熊本市歴史講座・出前講座】

・熊本市歴史講座は、本年度は「親子で学ぶ歴史体験講座」をコロナ禍の状況を考慮しながら、年度後半に3回実施する。出前講座は、申込を受けて小学校等で3回実施し、地域の歴史や文化を学んでもらった。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	来年度は、歴まち重点区域をはじめ、新たな小学校で授業を実施することを通して、引き続き景観教育の推進・普及を行っていく。

状況を示す写真や資料等

【R4年度景観教育】

知る・学ぶ

〈景観授業〉





提案する

〈地域課題解決のための提案〉



実行する

〈五福町に恩返しプロジェクト〉



本市職員による景観授業 (R4.6～)

地域課題解決の手法について、グループ毎にプレゼン資料を元に発表

まちの名所を巡り、ミッションをクリアしながら、ゴミ拾いを行う活動を、児童自らが企画

【熊本市歴史講座】



親子で学ぶ歴史体験講座 (蓮台寺文化財資料室)

【出前講座】



出前講座 (桜木小学校)

評価軸③-5-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
情報発信推進事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和2年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業/熊本県新型コロナウイルス感染症対応総合交付金

計画に記載している内容 歴史的風致に対する市民などへの認知度を向上させ、歴史まちづくりへの積極的な参画を促し、後世に引き継いでいくため、熊本城(城彩苑)や熊本博物館などの公共施設を情報発信の拠点とし、各地区の特徴を活かしたSNS・チラシ・マップ作成等による情報発信手法の検討・推進を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・熊本城の魅力を伝えるために令和4年10月からTwitterでの「つぶやき」を開始し、多くの反響をいただいております、YouTubeも開設し、その他のSNS等も活用して情報発信に努めた。
 ・重点区域において、城下町地区に引き続き、川尻地区における360度VRプロモーション動画を制作し、公開から1ヶ月で約123,600回の再生となった。動画公開とあわせて、熊本健康アプリ「げんきアップくまもと」とタイアップした、動画の撮影地を巡るデジタルスタンプラリーを開催し、241人の参加者が川尻のまちを散策した。あわせて「くまもと歴史まち360°」サイトをリニューアルし、TOPページから城下町地区又は川尻地区を選択し各地区のページに遷移する仕様とすることで、地区相互の回遊性を図っている。
 ・若年層に歴史的な文化資源にふれてもらい、故郷への誇りと愛着を醸成することを目的として、令和4年度は、Instagram「くまもと歴史写真部(くま歴写真部)」に投稿した写真を利用してパネル展を開催し、より幅広い世代を対象とする認知度上昇を図った。

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

・今後もSNSを中心に熊本城の復旧工事状況、発掘調査、イベント情報などの情報発信を行い、熊本城周辺の施設等と連携のうえ、回遊性の向上を図りたい。
 ・デジタルスタンプラリーについては、参加者や地元からは好意的な意見が多く、川尻地区の認知に繋がるイベントであった。今後は幅広い年齢層を取り込めるような内容で継続して開催したい。
 ・「くまもと歴史写真部(くま歴写真部)」は若年層をターゲットとして始めた事業であるが、24歳以下のフォロワーは9.7%に留まっており、最も割合が高いのが45～54歳の32.8%であった。若年層への訴求力が高い投稿について今後学生と意見交換などを行いながら検討していく。

状況を示す写真や資料等



熊本城twitter



熊本城youtube



「くまもと歴史写真部(くま歴写真部)」



くまもと歴史写真部
パネル展の様子



重点区域における360度VR動画サイト



360度VR動画
「瑞鷹酒蔵資料館」



360度VR動画
「国史跡熊本藩川尻米蔵跡」

熊本健康アプリ「げんきアップくまもと」デジタルスタンプラリーのご意見(抜粋)

【参加者】

- ・初めて川尻に来て、街並みや、景色等を散策でゆっくりと楽しめた。
- ・健康的にもまたこういった取り組みに参加したい。



【地元まちづくり団体】

- ・沢山の来訪者が散策し、川尻の街に対し好感を持って頂き嬉しかった。
- ・中高年層のご夫婦、ご家族が多かったので、若者向けのイベントとタイアップすると

市町村別参加者数



評価軸③-5-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
歴史まちづくり調査研究事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 令和2年度～令和11年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 歴史まちづくりに関する継続的な調査・研究等を行い、歴史まちづくりを推進する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

8つの歴史的風致に関する文化資源の保存活用団体より「熊本市郷土文化財制度」への申請を受け付けた場合は調査を行い、認定した場合は郷土の宝として顕彰することで、後世への継承促進や、まちづくりへ活用していく。本年度は、令和4年12月に「近津鹿島宮火の神祭り」を郷土文化財第2号に認定し、紹介HPの作成やSNSでの発信などで周知促進を図っている。

進捗状況 ※計画年次との対応

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述) 文化財に関する法や条例よりも幅広い範囲をカバーする制度であり、文化資源の保存・継承・啓発活動を団体で行っていることが申請の前提条件である。他にも条件があるため、申請を検討している団体へのフォローを適宜行っていく。
--	--

状況を示す写真や資料等



郷土文化財第2号
近津鹿島宮火の神祭り



認定書授与式の様子



認定書授与式 集合写真

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
文化財の保存・活用の推進	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 未登録・未指定の有形文化財の修理への支援策や、所有者や周辺住民等と協働による維持管理や活用について検討する。また、歴史的風致形成建造物や国の登録有形文化財、市指定文化財等への指定を検討する。併せて、無形民俗文化財等の担い手育成を視野に入れた活動団体への支援を継続する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

本年度は熊本洋学校教師ジェーンズ邸の復旧工事が終了し、熊本地震で被災した記念館全ての復旧が完了した。先に復旧・開館した徳富記念園、夏目漱石内坪井旧居、四時軒は、それぞれ展示や企画などに工夫をこらし、入館者の増加を目指す。
 また、未指定の被災文化財については引き続き熊本県被災文化財復旧復興基金を用いての修理の支援を実施し、所有者の負担の大きいものについては民間財団等の助成金を紹介した。なお、被災から復旧した未指定文化財の吉田松花堂について、将来的な国指定を目標に、民間の調査委員会による調査報告書が取りまとめられ、国(文化庁)へ提出された。
 さらに、無形文化財や無形民俗文化財の担い手育成促進のため、保存継承活動を行う11団体へ活動費助成を行っている。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	再開した記念館や文化財を知ってもらうため、興味・関心をもってもらい、より効果的な広報や周知方法を検討していくとともに、未指定文化財の指定については、各分野ごとのリスト作成に努め、指定候補の整理を順次進めていく。

状況を示す写真や資料等



復旧(移築)完了したジェーンズ邸(県指定重要文化財)



国へ調査報告書が提出された吉田松花堂(主屋)

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度 現在の状況
文化財の防災		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 文化財放火デー等の期間に、各関係機関及び消防組織と協力して、訓練を実施する。また、消防組織による文化財の予防的な査察と啓発を実施するとともに、所有者・管理者と消防組織と行政の三者による協力体制を構築する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

所管施設現地での訓練を3箇所(小泉八雲熊本旧居、御馬下の角小屋、徳富記念園)実施したほか、ポスター及び文化財所有者に『国宝・重要文化財(建造物)の防火対策ガイドライン』を文化財所有者及び管理者に送付し、周知に努めた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	文化財防災の重要性をさらに周知すべく、関係機関との連携のうえポスター掲示等、引き続き普及啓発に努めるとともに、常に防災意識を持つよう、所管施設の防災体制を改めて確認する。

状況を示す写真や資料等

【文化財防火週間の消防訓練】



火災受信装置の確認(徳富記念園)



消火器の使用訓練(徳富記念園)



消防署への通報訓練(小泉八雲熊本旧居)



消防局からの指導(小泉八雲熊本旧居)

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和4年度 現在の状況
文化財の保存・活用の普及・啓発		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容
 文化財のパンフレット作成や市ホームページの充実化を図る。文化財や歴史的風致を活用した企画展示や各種講座、イベント等の開催継続や、小中学校における歴史的風致教育等を実施する。また、普及・啓発の担い手でもあるボランティアガイドについても引き続き養成していく。無形民俗文化財の担い手の育成や技術の伝承のため、過去から現在までの記録作成等に取り組む。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・熊本市歴史講座は、「親子で学ぶ歴史体験講座」のほか、歴史ウォーキングを2回実施した。西南戦争歴史講座は、コロナ禍の影響により開催日を調整しながら、計画通り実施している。
 ・熊本博物館にて遺跡発掘速報展を開催した(令和4年12月10日～令和5年2月19日)。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	新型コロナウイルス感染症の感染対策を万全に期し、引き続き事業実施を継続する。

状況を示す写真や資料等



熊本市遺跡発掘速報展 (ギャラリートーク)



熊本市遺跡発掘速報展 (企画展示)



西南戦争歴史講座 (植木文化センター)



歴史ウォーク(池辺寺)

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	令和4年度
項目	現在の状況	
埋蔵文化財の取り扱い	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容 開発等の際して、地権者への周知を図るとともに、十分な事前協議を行い、できるかぎり現状保存を図る。免れない場合は、発掘調査を実施して、記録保存を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

区域内が埋蔵文化財包蔵地に当たる場合は、開発等の際し文化財保護法第93・94条に基づく届出・通知を求め、計画内容によって確認調査、工事立会等の処置を行い、遺跡に影響を与えるような工事の場合は記録保存のための発掘調査を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

引き続き、開発等に関して十分な事前協議を行い、文化財(遺構)保存の重要性・必要性の理解促進に努める。また、建築等に伴う届出の増加により確認調査の件数が増加していることについて、引き続き、調査の人員体制、スケジュール調整、作業内容の効率化などを進めていく。

状況を示す写真や資料等



確認調査 (重機による掘削状況)



確認調査 (遺跡の残存状況を確認)



工事立会 (工事による遺跡への影響がないことを確認)



遺跡の発掘作業

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	評価対象年度	
	年月日	令和4年度 掲載紙等
伝統建築「壊さず修復を」 南区の古川さん 過程を記録、本に	令和4年5月12日	熊本日日新聞
路地 歩いて楽しむ 中央区 古町地区でイベント	令和4年5月22日	熊本日日新聞
町づくりイベント「路地」の楽しみ方	令和4年5月24日	KAB
歴まち支援4法人指定	令和4年5月28日	熊本日日新聞
熊本市で「歴まち支援法人」の指定式	令和4年6月22日	TKU
川尻精霊流し 3年ぶり実施へ	令和4年6月22日	熊本日日新聞
市長とどンドン語ろうin川尻開催	令和4年8月23日	TKU
熊本市中央区の城下町地区 古民家パチリ 住文化も学ぶ 愛好家ら「フォト甲子園」	令和4年8月28日	熊本日日新聞
藤崎八幡宮例大祭 神幸行列 待望馬追い 勢子どーかい	令和4年10月24日	熊本日日新聞
(生かす)民有地 集いの場に 熊本市で実証実験	令和4年11月15日	熊本日日新聞
コスプレ 歴史の街に合う 川尻でイベント 寺院、石積みで決めポーズ	令和4年11月28日	熊本日日新聞
伝統の町屋 にぎわい創出 熊本市新町・古町、川尻地区 市の活性化事業 リフォームで飲食店などに	令和5年2月22日	熊本日日新聞
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
歴史的風致に関連する報道・・・新聞に掲載された記事数9件、ニュース等で取り上げられた件数3件		

評価対象年度 令和4年度

・法定協議会等におけるコメント

コメントが出された会議等の名称: 第8回 熊本市歴史まちづくり協議会

会議等の開催日時: 令和5年(2023年)3月20日(月)

(コメントの概要)

※別紙のとおり

▼午前 実地見学の様子



▼午後 協議会の様子



(今後の対応方針)

※別紙のとおり

法定協議会等におけるコメント

(コメントの概要)

1. 事業全体について

- ・ハードが主である歴史的建造物や周辺環境の整備に係る事業だけでなく、地域の活動をベースに、ソフトが主である伝統文化を反映した活動の継承や、観光振興、情報発信に係る事業をより充実させ、ハード整備の事業に帰っていくような動きが必要だと思う。

2. 町屋利活用プラットフォームについて

- ・主体的に動く方だけでなく、困ってる人を助けることも行政の仕事として重要であり、丁寧なアフターフォローが、歴史と文化を生かしたまちづくりの観点から求められる。
- ・一元的な相談支援体制として、銀行が入ってきたことは非常に心強いことだが、更に不動産系の専門家がいるだけで、信頼関係の構築や契約に関する助言などが受けられ、マッチングの進み具合が変わっていくと思う。
- ・民間だけでやるべきという状況ではなく、行政が御用聞きになり一緒に取り組むと相互理解が生まれる。
- ・クラウドファンディングなどの資金集めの手法を自ら率先して行う事業者が熊本にはたくさんいるため、積極的に連携すべきだ。

3. 町屋のマッチングについて

- ・不動産のマッチングになるので、その時のタイミングや双方の思いにもよるが、時間をかけて1件1件実績を積み上げていくしかない。
- ・町屋の所有者の世代交代や住まなくなったタイミングで、壊すか活用するのかという選択肢が出てくる。常に門戸を開いて構えていないと情報が入って来ず、待ちの状況になってしまうことが、マッチングが進まない要因の一つである。
- ・今残ってる町屋を一つでも多く残すため、民間が入りやすくなるよう、行政の皆さんにも頑張ってもらって手を入れて欲しい。
- ・まちづくりスクールのような、空き町屋等に対して、事業者から所有者に対して、町屋の使い方を提案させてもらう場を企画することも、最終的なマッチングにつながる。

4. 町並みづくり助成金について

- ・助成金について、広く制度を認知してもらうため、行政にて粘り強く周知の徹底を行っていただけたらと思う。

5. 唐人町通り道路美装化、空地等活用支援について

- ・新町・古町地区ならではの、統一感のあるライトアップやデザインを考えていくと、更に魅力アップにつながると思う。例えば、花畑広場にあるような、ベンチにライトアップをつけることもいいと思う。

6. 文化団体への助成について

- ・新町獅子保存会の舞手の高年齢化などソフト面が問題になってきている。これからは、若い人たちの勧誘や、伝統文化を守るために、昔のものを保存するだけではなくて、一部リニューアルしながら、よりPRし魅力を伝えていきたい。
- ・伝統文化団体の横のつながりが重要であり、様々なことが共有しながら、コロナが終息に向かってきたというこのタイミングで、何か考えていきたい。

7. 観光周遊について

- ・これまで守ってきたものを活用し継承していくパワーは、そこに住んでる人の思いに加えてお金が動く必要があり、観光の力が必要になってくると思う。
- ・地元のまち歩きガイドとの連携も必要で、ガイドにある程度のお金が払われ、観光客が質の高いツアーを体験できれば、商品としてもっとPRされる。加えて、町屋を保存するためのツアーといった、そのツアーの目的まで情報発信をすべきで、観光客が払うお金が、その目的のために活用されることが、メッセージとして届く必要があると思う。
- ・建造物の活用の際に、観光客にお金をどうやって落とさせるかという仕掛けが、それぞれの地域で必要になってくる。新町・古町・川尻地区も非常に魅力的な地域なので、観光客にどう見せるのか、まちづくりをどうしていくのかを一緒に考えていく必要がある。
- ・住む人と訪れる人たちが、交流や会話ができる場が必要で、建造物が出来てアウトプットをどうするのかを考える時に、その辺の視点がとても必要だと思う。

8. 情報発信について

- ・市の情報発信ツールについて、誘客に繋がるような動画やSNSなど、多くの取り組みをしているので、全ての情報をまとめた一覧表やチラシのようなものがあると、一層効果があると思う。
- ・どうやって使ってもらうのか、誰に使ってもらうのか、どこで情報発信したら一番効果的に地域に人を呼び込むことができるのか、その辺の策がもう少し必要だと感じた。
- ・駅や熊本空港に情報を置き、観光客の行動変容につながるような仕掛けが必要だと思う。

9. その他

- ・マンション住民のまちに対する愛着についてはフラットだと思うので、取り残さないようにしてほしい。
- ・大事なことはファンをつくっていくこと。個人的には高校生や中学生が大事だと思っているが、将来的にまちづくりを新しい働き方の一つとして考えてもらうこと必要がある。
- ・住民参加型の企画をどれだけやれるかということが重要だ。自身の生まれ育った地域のことを何も知らずに他の地域へ出て行ってしまふことが多いので、子どもたちにも、自分の住む地域の魅力を肌で感じるような機会づくりが必要である。

(今後の対応方針)

【全体を通じて】

町屋等の保存・活用に係る事業だけでなく、文化財部局や観光部局との連携を図りながら、伝統文化を反映した活動の継承や、観光振興、情報発信に係る事業をより充実させ、ハードとソフトの双方の事業をバランスよく進めていく。

【町屋等の保存・活用について】

町屋等の保存・活用に関しては、引き続き、所有者や事業者と対話を重ねながら、信頼関係を築きながら、最初につなぐ部分だけでなく、アフターフォローを含めた対応を行う。

また、歴まち支援法人等と協働しながら、地域の実情に即したマッチング支援事業の実施等、一つ一つの物件のポテンシャルをうまく高めながら、面的に波及させていく取組を進めていく。

【周辺環境の整備について】

道路空間だけでなく、沿道空間や周辺地域等を含めて、継続的な取組や実践による検証の繰り返しを行うとともに、地域の機運を高めながら、事業を推進する。

【文化団体への助成等について】

市の予算だけでなく国・県等の補助制度もあるため、情報をうまく収集しながら、共有していきたい。

【観光周遊について】

引き続き、歴史的風致エリアの回遊性を高め、周遊を促す取組みにより、市民や観光客の認知度向上に努める。

【情報発信について】

ターゲット設定やターゲットに見合った発信手法を検討した上で、効果的な情報発信を行っていく。